相模原市立老人福祉センター渓松園及び相模原市立老人福祉センター若竹園
指定管理者選考委員会の議事概要及び選考の概要

＜選考委員会の議事概要＞

１　日時

令和８年１０月６日(火)　午前９時から正午まで

２　会場

相模原市民会館　２階　第２中会議室

３　出席者

（１）相模原市立老人福祉センター渓松園・若竹園指定管理者選考委員会委員　５名
（２）事務局（健康福祉局地域包括ケア推進部高齢・障害者福祉課）　４名

４　選考委員会の委員の構成

（１）大学教授（委員長）　１名
（２）公認会計士　１名
（３）相模原市立老人クラブ連合会代表者　１名
（４）相模原市社会福祉協議会代表者　１名
（５）市職員　１名

５　公開の可否

議題「（２）エフィラグループ株式会社による提案説明」及び「（３）ギオン・コンティグループによる提案説明」のみ公開とし、その他は相模原市立老人福祉センター渓松園・若竹園指定管理者選考委員会設置要綱第９条により非公開とした。

６　議題

（１）提案説明及び選考委員会に係る説明
（２）エフィラグループ株式会社による提案説明
　ア　提案説明
　イ　質疑応答
（３）ギオン・コンティグループによる提案説明
　ア　提案説明
　イ　質疑応答
（４）事務局による書類審査等の結果報告
（５）経営状況に関する審査結果報告
（６）評価に対する意見交換
（７）各委員による採点
（８）評価票の集計
（９）集計結果報告及び候補団体の選考

7　議事概要

（1）提案説明及び選考委員会について事務局から説明を行った。

（2）エフィラグループ株式会社による提案説明

申請団体からの提案説明を受け、それに対して選考委員会委員が質疑応答を行った。

（主な質疑応答）

委　　員：売店スペース等で販売する「障害のある方の就労支援に関する製品」とは、具体的にどのようなものか。

申請団体：就労支援の現場で製作された小物類などを考えている。

委　　員：既存の利用者以外に施設を知ってもらい、新たな利用者を呼び込むための周知方法は考えているか。

申請団体：市役所等の協力も得ながら、開催日時や内容を記載したポスター等を掲示することや、法人の各サービスを通じて、日頃から接点のある利用者に施設や催しを直接案内することの２つを考えている。

委　　員：若竹園の利用者数を１日平均７３人から８０人に増やすため、さまざまな施策の中で最も効果が高いと考えるものは何か。

申請団体：送迎車の新設が最も効果的であると考えている。
雨天時や足元の悪い日には、来館を控えたことをきっかけに施設へ通う習慣が途切れてしまう場合がある。送迎手段を確保することで、天候や身体状況に左右されず継続的に通いやすくなる。

委　　員：健康づくりの取組について、利用者の体力や身体機能を測定し、継続的に記録するのか。

申請団体：体組成計等を活用することを検討している。高度な測定機器に限らず、靴下を脱ぐなどの複雑な動作をせずに使用できる簡便な機器も候補としている。
また、定期的に測定して変化を把握し、日常生活における身体活動や運動量を確認できる環境を整えたい。

委　　員：両施設は立地や利用者の集まり方に違いがあると考えられるが、送迎以外に、施設ごとにどのような集客方針の違いを設けるのか。

申請団体：渓松園は市内の広い地域から利用者を集めることを基本とし、既存の送迎ルートを生かして広域からの利用を促す。
一方、若竹園は町田市や座間市に近い立地を生かし、他市との広域連携を強化して、市外からの利用も促進する。また、講座の内容が同じであっても、講師や施設への親しみやすさ等によって利用者が選ぶ施設は異なる可能性がある。それぞれの施設の特性に応じて利用者を獲得する。

委　　員：施設での講座や交流を通じて、どのように利用者の活動を広げていくことを考えているのか。

申請団体：例えば、男性向け料理教室で料理を学び、日常生活で実践し、さらに友人を招いて料理を振る舞うなど、施設での学びを地域や日常生活での活動につなげられると考える。

施設内の活動にとどまらず、友人との交流や地域住民との関わりを通じて、利用者が新たな役割や活躍の場を得られるようにしたい。

（３）ギオン・コンティグループによる提案説明

申請団体からの提案説明を受け、それに対して選考委員会委員が質疑応答を行った。

（主な質疑応答）

委　　員：新規利用者を増やすために、特に効果的と考えている取組は何か。

申請団体：これまで実施していなかった事業や新たな企画を積極的に展開し、興味を持った人の来館を促すとともに、口コミによって利用者の輪を広げていく。

こうした事業展開を着実に実施することで、令和１３年度の利用者数９０人の目標達成を目指す。

委　　員：新しい事業を展開するにあたり、その事業に効果があったかどうかを、開催後にどのような方法で評価するのか。

申請団体：事業の種類に応じて、複数の指標を用いて評価する。

大規模イベントは年１回の開催を想定しており、主に参加者アンケートで評価する。継続的に実施する事業については、アンケートに加えて、類似事業は２回目以降にリピーターの人数を数値化する。

また、新規参加者数、継続参加率、満足度等を把握し、その結果を踏まえて、事業の継続、改善、見直しを行う。

委　　員：近年、高齢者の中には集まりに参加しにくい方や、人との関わりを望まない方もいる。そうした方にも施設に来てもらい、利用につなげるためには、どのような工夫が必要と考えているか。

申請団体：高齢者の来館目的は多種多様であり、同年代と一緒に活動することを望まない人も一定数いると認識している。

そのため、多様な事業を用意し、特定の交流方法に利用者を限定しないようにする。また、集団での事業参加が難しい方には、職員が健康相談等を入口としてコミュニケーションを図る。

事業への参加が難しい場合でも、職員との関わりを通じて再来館につながるようにするなど、事業と職員の双方からアプローチしたい。

委　　員：提案している新しい事業と、これまで渓松園で実施されてきた事業との整合性を、どのように考えているか。

申請団体：既存事業については、基本的に継続して実施する方針である。指定管理者が変わったことによって、利用者が「これまでと違う」と感じたり「通いづら

い」と感じたりすることは避けなければならない。利用者が楽しみにしている既存事業は継続し、その上で新たな提案事業を追加する。実施後は、アンケート結果や新規参加者数、継続参加率等を把握し、利用者の需要に応じて事業を改善していく。

委　　員：渓松園や若竹園の施設内を見学した際に感じたことや、改善した方がよいと考えた点は何か。

申請団体：両施設を訪問し、アットホームで温かい雰囲気の施設だと感じた。
一方で、渓松園は、チラシや教室案内等が設置されていたものの、来館者が十分に情報に気づける状態になっているか疑問に感じた。また、職員と利用者のやり取りについても、受付や予約等の業務上必要な会話が中心で、職員から利用者へ積極的に声をかける様子はあまり見られなかった。
利用者の体調や近況を尋ねるなど、職員から働きかけるコミュニケーションを増やす余地があると感じた。
若竹園は、見学時に利用者が少なく、普段の雰囲気を十分に把握できなかったが、利用者の活動や来館を促すための取組が必要と感じた。こうした課題を踏まえ、広報や事業の充実を図りたい。

委　　員：送迎バスは、どのような運用を想定しているのか。また、従来の運用を変更する考えなのか。

申請団体：団体送迎については、１か月前までの予約を基本とする想定である。
個人送迎については、１週間前までの予約をとし、予約者の自宅近隣の指定場所に迎えに行く運行方法を考えている。
現行の送迎バスは利用者数が少ないが、事前予約制にして自宅近隣まで送迎することにより、利用者の需要に応じた効率的な運行ができると考えている。
また、指定管理開始後に従来の運行を希望する声があれば、利用者への聞き取りを行い、需要に応じて運行方法を検討したい。

委　　員：健康相談は、どのような体制や方法で実施するのか。

申請団体：健康器具の導入と健康相談を組み合わせて実施することを考えている。
健康運動の実践経験や社内資格等を持つ職員が、健康器具の使い方を説明するとともに、利用者の身体の状態を聞き取り、健康相談に対応したい。

委　　員：既存の入浴サービスについて、健康づくりや生きがい、地域とのつながりという運営方針の中でどのように位置づけているか。

申請団体：入浴を目的に来館する利用者が多いと考えており、令和９年度に入浴サービスの内容やルールを変更することは考えていない。
入浴そのものによる身体的な効果だけでなく、入浴前後に利用者同士が会話をしたり、カラオケを楽しんだりすることも、健康や生きがい、地域とのつ

ながりにつながると考えている。

（４）申請団体からの提出資料の審査等の結果について事務局から説明を行った。

（５）公認会計士である委員が行った審査の内容について、同委員から資料に基づき説明があった。

（６）選考委員会委員で意見交換を行った。

（主な意見）

＜エフィラグループ株式会社＞

〇利用者一人ひとりの健康状態を把握し、経過を確認するなど、個別の健康管理に重点を置いた提案である。

〇看護師等による健康チェックを日常的に実施する計画は、入浴時の事故リスクへの対応や介護予防の観点から評価できる。

〇開館時間の延長や送迎サービスの拡充など、利用者の利便性を高めるための積極的な提案がある。

〇若竹園の送迎サービスについては、利用者の継続的な利用や新たなニーズの把握につながることが期待される。一方で、配置人員や人件費の計画には懸念があり、提案された事業の実現可能性について慎重に判断する必要がある。

〇施設単独で安定した運営ができるのか、注視する必要がある。

＜ギオン・コンティグループ＞

〇地域とのつながりを生かした幅広い事業が提案されており、施設への来訪者や交流機会の増加が期待できる。

〇健康づくりを中心とした新しい取り組みが盛り込まれている。

〇地域活動や各種団体との連携を通じて、従来とは異なる施設の活用方法が期待できる。

〇事業計画は、現状分析を踏まえて具体的に作成されており、既存事業を継続しながら改善を図る姿勢が評価できる。

〇人件費については、事業内容に応じた配置を想定しており、実施体制を具体的に検討していると評価する。

○代表団体と構成団体の役割分担が示されており、多様な事業を実施するための体制が整えられていると考えられる。一方で、多くの事業を継続的に実施するための具体的な運営体制や実行可能性については注視する必要がある。

※　選考委員会は申請団体名をブラインド化しており、当日は申請団体Ａ及び申請団体Ｂとしていたが、議事概要では申請団体の名称を使用している。

（７）各申請団体の提案説明や意見交換の結果を踏まえ、各委員が評価票に基づき採点を行った。

（８）事務局が、各委員の評価票の集計を行った。

（９）事務局が、各委員の評価票の集計結果の報告を行った。また、指定管理者候補団体及び次点候補団体を発表した。

＜選考の概要＞

１　選考結果

ギオン・コンティグループを指定管理者候補団体とし、エフィラグループ株式会社を次点候補団体とすることとした。

２　選考理由

（１）評価基準に基づき採点を行った結果、最低基準得点を超え、かつ、最も高い合計得点であったこと。

（２）評価項目において、施設設置目的に照らして適正な施設運営が行われる水準を満たしており、かつ、市民サービスの向上が図られるものと評価したこと。

（３）候補団体の経営状況が良好であり、継続的な管理運営が期待できること。

３　評価基準・評価結果

指定管理者候補団体（ギオン・コンティグループ）及び次点候補団体（エフィラグループ株式会社）の評価基準に基づく評価結果は、次のとおりです。

評価項目		配点	候補団体	次点候補団体
事業計画				
内訳	指定管理者の適性	５０	４４	４０
	管理運営方針	２５	２２	１７
	地域活性化	２５	１９	１８
	計画事業（自主事業を除く。）	５０	４２	３８
	自主事業	５０	４２	３４
	利用者ニーズ	５０	３６	３４
	維持管理計画	２５	２０	１９
	人員配置	２５	１８	１７
	安全管理及び緊急時の対応	２５	２０	１７
	適正な管理・経理	２５	１８	１８
	小　計	３５０	２８１	２５２
収支計画・経費的効果				
内訳	収支計画の妥当性	２５	１５	１５
	指定管理料の削減	２５	１５	１５
	利益の還元	２５	１５	２５
	小　計	７５	４５	５５
管理能力				
内訳	団体の経営状況	２５	２０	１５
	団体の管理能力	２５	２０	１７
	労働環境の適正性	２５	１８	１７
	小　計	７５	５８	４９
合　計		５００	３８４	３５６

※事業計画、収支計画・経費的効果及び管理能力に係る評価に関する合計得点における最低基準得点は、３００点としました。